

## 鷺ノ木遺跡見学会

- 実施日：8月3日(土)・8月25日(日)・9月21日(土)・10月5日(土)
- 時間：午前9時30分出発～12時00分頃終了(受付は午前9時より)
- 集合：森町役場駐車場(森町御幸町144番地1)
- 内容：鷺ノ木遺跡、鷺ノ木史跡公園、榎本武揚上陸地、発掘事務所展示室の見学会
- 申込み：見学希望日を選び、希望日の2日前までにご連絡ください(定員30名)
- 問合せ：森町教育委員会社会教育課  
01374-2-2186(文化財保護係)

入場無料



▲鷺ノ木遺跡(森町教育委員会提供)

## 札幌国際大学記念講演会「釧路の縄文文化」

### 第1回展覧会記念講演会「釧路の縄文文化」

■日時：7月13日(土) 13:30～14:30(予定)

■場所：札幌国際大学

■講師：石川 朗 氏(釧路市埋蔵文化財センター)

第1回展覧会「釧路の縄文文化」開催における記念講演会。道東・釧路の縄文文化について、東釧路貝塚などを中心にお話していただきます。

「釧路の縄文文化」の魅力伝える展覧会も開催中です!(8月10日まで)

■問合せ：札幌国際大学縄文世界遺産研究室

011-881-2433(平日9時～16時半) URL <http://www.siu.ac.jp/jomon/>

入場無料



## 縄文夏まつり

■日時：7月25日(木)～28日(日) 10:00～19:00  
(25日は11:00から。最終日28日は17:00まで。)

■場所：札幌駅前通地下広場(チカホ) 札幌駅前イベントスペース

■内容：●縄文土器などの出土品展示

北海道や秋田県などで出土した土器・土偶等を展示します。

●北の縄文セミナー@チカホ 各日14:00～15:00 道民カレッジ連携講座

7月26日(金)「音江環状列石 ～むかしを伝える“みえる”遺跡～」

講師：深川市教育委員会 学芸員 百々千鶴 氏

7月27日(土)「入江・高砂貝塚の保存活用とまちづくり」

講師：洞爺湖町教育委員会 主幹 角田隆志 氏

7月28日(日)「縄文時代の、とあるムラの日常 ～伊達市北黄金貝塚～」

講師：伊達市教育委員会 学芸員 永谷幸人 氏

夏まつりだよ 全員集合!

①北の縄文ワークショップ@チカホ 各日11:00～12:00 定員30名

7月27日(土)「ミニチュア土偶を作ろう!」

講師：北海道埋蔵文化財センター 主査 坂本尚史 氏

7月28日(日)「ミニチュア土器を作ろう!」

講師：北海道埋蔵文化財センター 主査 柳瀬由佳 氏

②縄文人になって狩りに出よう! 輪を動物的に投げて獲物を捕まえよう!できるかな!?

③縄文土器にさわってみよう! 縄文土器や縄文時代の道具にさわってみよう!

④縄文であそぼう! 縄文スタンプでオリジナルカードをつくろう! 遊べるグッズが沢山あるよ!

■問合せ：北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室

電話 011-204-5168

入場無料



- 編集後記
- ◎北海道にも暑い夏がやってきました。『みんなの力で 北の縄文を世界遺産に!』の実現に向けて、がんばりましょう!(T.H)
  - ◎今年も頑張って明るく楽しい縄文ネタをお送りします!今年も縄文が熱い!応援よろしくをお願いします!(M.S)
  - ◎6月から縄文世界遺産推進室にきました。大学時代は縄文土器の研究をしていました!(H.Y)
  - ◎今回から本格的に『北の縄文』の編集に携わりました。暑さに負けず頑張ります!(N.Y)

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議 編集長 谷 紘道 編集委員 村上、墓田、西島  
TEL:011-221-1122 FAX:011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail [ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp](mailto:ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp)



令和元年 7月発行

目次

■北の縄文コラム	・・・P1
■ランチタイムセミナー講演録	・・・P2
■よもやま話/道外構成資産	・・・P3
■縄文トピックス	・・・P4～5
■イベント情報	・・・P5～6

## 北の縄文コラム

# 縄文エネルギーを感じて

「北海道と北東北の縄文遺跡群」を繋ぐ津軽海峡。そう、ここは縄文の人達が利用していた水路。この海峡を往来し相互の交流は活発に行われ、共通する「円筒土器文化圏」が形づくられた。「海峡の最短部は20km程の距離だというし。鬱蒼とした山を越えるよりも海や川を利用する方が合理的!」なんて、軽く考え納得していましたが、とんでもない!!

ある番組の取材で「津軽海峡」のお話をうかがう機会があったのですが、どうやら単なる水路ではないのだそう。世界中を周っている海流よりも強い流れが津軽海峡にはあり、単位時間にどれだけの水が流れるのかというと、石狩川の約1000倍ですって!日本海を北上する対馬海流が流れ込み北太平洋へと抜けて行きますが、日本海側の水位が20cmほど高く、その水位差で一方方向に一気に流れてくるといいます。その両脇には渦もあり、ただ真直ぐに流れているだけでもない等々、その厳しさを聴くと、私の思考は、はからずも縄文へワープしてしまいました。「横断は容易ではなかったはず。」こんな難所を、縄文の人達は自然のリズムを把握し知恵を使い果敢に行き来していたのです。

縄文時代を知れば知るほど人間の可能性の広がりをも実感します。また、土器や土偶に込められた彼らのエネルギーや心が伝わってきます。

さて、夏だというのに、我が家は今夜も(困った時の)鍋料理。「縄文人は毎日鍋料理だったのよ。」と言い訳をしながら...それを喜んで食べる夫も縄文人のように懐が深い。こんなところでも縄文の世界とリンクしています。

北の縄文道民会議 幹事 山口 由美  
(フリーアナウンサー)





## 北の縄文ランチタイムセミナー

4月23日、道庁本庁舎1階交流広場において開催した「北の縄文ランチタイムセミナー」講演の一部を抜粋して紹介します。

### 「縄文文化の魅力-平成の環状列石調査を振り返る-」

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課  
(併任)北海道環境生活部 縄文世界遺産推進室  
西脇 对名夫 氏

平成もあと1週間で終わろうとしております。この30年ほどの間に、縄文の環状列石の起源や変遷についてかなり調査が進んだので、今日はそのことを御紹介したいと思っております。

20世紀の前半まで、環状列石は主に道央地方で見つかり、一方本州ではほとんど知られていなかったのですが、1980年代以降に渡島半島と北東北で次々と発見され、津軽海峡を挟む地域に分布の中心があり、道央のものはむしろ後になって分布が広がった結果と考えられるようになりました。

また、東北地方で環状列石の調査を進めた結果、列石の周囲を柱の太い、どうも高床式らしい建物が取り巻いており、一方列石の中は少し掘り下げていることが分かってきました。



▲ランチタイムセミナーの様子

北海道では径数mの小型の環状列石があることが分かったのですが、これも列石の中を掘り下げている、一方列石の周囲には土を盛り上げる特徴を持っています。これらはどれも大体4,000年ほど前のものなのですが、それより少し古そうな環状列石というのが、下北半島と渡島地方東部で見つかりました。

一番典型的なのは、函館空港の拡張工事に伴って調査された石倉貝塚の例です。中央に径20mほど、赤土まで掘り下げている部分

があり、その中央に墓穴らしいものが見つかり、その周囲を12mくらいの幅で掘り下げがなくやたらに穴の多い区域がめぐっており、この部分には4本柱の建物が建って中央の堀下げをぐるりと取り囲んでいたことが分かりました。

さらにその周囲は、逆に土を盛り上げた部分が15mほどの幅で取り巻いており、そして盛土と建物、及び建物と中央の堀下げの境に石を並べて、段差が崩れないようにしてありました。

この三段構成の遺跡に似たものは北斗市の館野遺跡でも見つかりましたが、どうもこういうものが環状列石の古い姿であり、そこからなぜかはわかりませんが建物が二重の列石の外に出て列石の間が狭くなった状態のものが北秋田市の伊勢堂岱遺跡の環状列石Cや青森市の小牧野遺跡の例であり、さらに列石が墓標を持つ墓穴の集合体のようなものに変化したのが鹿角市の大湯環状列石であると考えられます。これらは石倉貝塚の例に始まって外側の列石の直径はどれも35~45mくらいで、そんなに規模の大小はありません。

これに対して北海道では先ほども言いましたように明らかに規模の小さい環状列石が現われるのですが、これも三段構成で二重の配石を持つ点で、明らかに石倉貝塚のような遺跡に由来するものと言えます。

さて、森町の鷲ノ木遺跡は年代の点ではほかの環状列石よりかなり新しいのですが、鷲ノ木でこれまでに2つ見つまっている「竪穴墓域」はどうもこの小型の環状列石の後裔に当たるものではないかと、私は考えております。だから鷲ノ木遺跡では、普通の規模の環状列石を小型の環状列石(ただしもう石は置かない)が複数取り囲んでいる点に特徴があるわけですが、「竪穴墓域」が墓であるなら環状列石の方も墓であるということになるのではないかと。

だから、鷲ノ木の環状列石の中央の配石の下には、周囲の竪穴墓域に埋葬された人たちよりよほど地位の高い人が埋葬されている可能性があるかと、私は思います。



## 縄文よもやま話

### ～ 縄文時代の編み物 ～

縄文時代には、様々な編み物が作られていたようです。青森県の三内丸山遺跡から、「縄文ポシエット」と呼ばれる高さ16cmほどの小さな袋が見つかりました。縄文時代前期中葉(約5,500年前)頃に作られたとみられ、樹皮を縦横に組んだ「網代編み」で作られています。



▲北海道埋蔵文化財センター 所蔵

▶「縄文ポシエツト」(重要文化財)  
三内丸山遺跡センター 所蔵



また、恵庭市の柏木川4遺跡では、縄文時代後期(約3,200年前)に作られたとみられる、数種類の「模様編み」が施された編み布(最大長6.4センチ)が発見されました。

布は、タコ糸くらい細い糸と、太めの毛糸くらいの太い糸の2種類を巧みに使い分け、縦糸と横糸を絡み合わせる「もじり編み」という技法が用いられています。中には、横糸の一部を引き出して団子状の模様にした部分や、太い横糸に8本の細い縦糸を編み込んだ飾り編みや刺繍のように見える部分も確認されており、用途により、様々な編み方が存在したようです。

縄文時代の人達も編み物をしていたのかと思うと、現代の私たちにも通じる場所があるところがあるところがあってどこか口元がほころんでしまいます。

## 道外の縄文の構成資産から

### ～ 特別史跡 大湯環状列石(秋田県鹿角市) ～

縄文時代後期前半(紀元前2000年~1500年頃)の大規模な環状列石を主体とする遺跡です。環状列石は万座と野中堂の2つで構成され、それぞれの直径は40メートルを超えます。200年以上にわたって造り続けられたと考えられ、縄文人の精神文化を表す貴重な遺跡です。

2つの環状列石の中心を結んだ線が夏至の日没方向と一致していることから、当時の人々は太陽の動きを意識してこれらを造ったとも言われています。

特別史跡の中では竪穴建物跡、掘立柱建物跡、柱列なども見つかり、一部は復元整備されています。いずれも環状列石の性格を考える上で重要な遺構です。



▲日時計状組石(鹿角市教育委員会提供)

◀ 真上から(鹿角市教育委員会提供)

